
嘘恋

暁 京

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

嘘恋

【Nコード】

N1950A

【作者名】

暁 京

【あらすじ】

夏、秋、冬。そして、春。巡りゆく季節が一年にも満たない蜜月の中で、私は恋をした。終わりの見えていた恋を。

私の恋が始まったのは、その年最後となった牡丹雪のちらつく冷たい夜だった。

第一志望の高校の、合格通知をもらった日。

受かったら何か願い事を一つ聞いてくれると言った。彼はそんな夏のはじめのたわいない約束を守っただけの事。はじまりは、それでもいいと思った。

だって、私にとっては確かな恋だったから。たとえそれが矛盾だらけの苦しい恋だったとしても。たとえそれが一方通行の想いだったとしても。

彼とは夏休みのはじまりの日、やかましい蝉音を閉ざした小さな私の部屋の中で出会った。

家庭教師と一生徒。

少しずつ終わらせてゆく問題集や赤本が積み重なってゆくことに、少しずつ少しずつ私は彼を好きになっていった。潮が満ちてゆくように。たくさんの時間の共有は、私の宝物だった。

彼は事故で恋人をうしなっただけで、私はその弱さにつけこんだ。

自分がこんなにも『女』だったなんて知らなかった。

いやらしくて、きたなくて、あさましい。ほんのひとかけの愛情でさえも私だけに注いでいてほしかった。

彼の瞳に映りこんでいるのは、恋人の幻影でしかなくて、それでもいいから一緒にいたかった。だけど私が好きになればなるほど、彼の気持ちは潮が引いてゆくように離れて行く。その事に、気付かないフリをした。

「ねえ、笑つてよ」

やわらかに降る桜吹雪の中、あなたは私にくちびるを歪めてくれるけど、その表情はいつだって私を空高く舞い上がらせて、そして地の底までたたき落とし、めちゃくちゃに痛めつける。

抱きしめては突き放す、あなたの腕。

くちづけたそのくちびるで、否定の言葉を紡ぎだす、あなた。

でも私、本当は知っていたの。あなたは私にわらいかける事なんて、絶対に出来ないんだって。

この桜がすべて舞い散る頃、あなたはきっと、もう私の隣にいない。

あなたは優しいから、私に嘘をつく。

だから私は、素直に騙されるの。

私のために優しい嘘をついてくれるあなたを、裏切らないために。

ねえ、笑つてよ。

嘘でもいい。

嘘でいいから。

（後書き）

高校受験前、家庭教師だった大学生にざっくりフラれた苦い思い出（笑）を、かなり美化して書きました……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1950a/>

嘘恋

2010年11月25日02時46分発行